

匠瑛普通学校址

八日市場を歩く

知人から和綴じ本の「漢籍」を所蔵するとの連絡があり、拝見することができました。30数冊のうちの何冊かに当時の所有者名が記され、それらの没年により幕末から明治初期にかけ高村にあった寺子屋か私塾で使われたものだろうと推察できます。

その中に「中等漢文定本」(明治44年発行)があり、裏に「匠瑛普通学校生徒」と書かれていて、同校で使用した教科書であることがわかります。

万町・見徳寺境内に隣接して、正面に「匠瑛普通学校址」、側面に同校の由来が刻まれ、昭和53(1978)年1月に同窓生一同が立てた角柱があります。

側面には「明治三十七年(1904年)匠瑛普通学校を松山に創設し、大正八年(1919年)この地に新校舎

を建て、卒業生三千名を数えて地方教育文化の為貢献する処極めて多くここに校友相語り永代に記念す 校長松山英胤」と刻まれています。

創設者の松山英胤は松山神社の神官でもあり、神社境内に私立の中等教育施設「匠瑛普通学校」を開設(開設年を明治38年とする記録もあり)、同38年度の生徒数60人、修業年限は3カ年、その後毎年60人ほどが入学し、重点科目の国語、数学、英語を数名の教師が指導しており、当時の統計書を見ると入学者数に対して卒業生が少ない傾向が見られます。

開校から10年余りを経て、匠瑛郡教育会は同校を財団法人匠瑛普通学校とし、校舎の移転を決めました。大正8年1月から八日市場町の新築校舎に移ったものの、同14(1925)年に火災(火災を昭和9年2月とする記録もあり)に遭い、前年に開校した県立匠瑛中学校(現・匠瑛高等学校)の影響などもあったか、生徒数も減少し、昭和10(1935)年に自然閉校になったとされます。

匠瑛普通学校を伝えるものは、この石碑のほか松山神社境内の松山英胤の頌徳碑などがあります。

(市文化財産委員会・

依知川雅一)

関秘書課広報聴班

☎73・0080



匠瑛普通学校址